

奈良・人と自然の会



通常総会を終えて

会長 川井 秀夫

初夏の日差しがまばゆい5月23日。県文化会館にて第三回通常総会が開かれ、過半数の委任を頂戴し、無事終了することが出来ました。紙面を通しあらためて会員各位にお礼申し上げます。

不肖私が引き続き会長の重責を担うこととなり、改めて身の引き締まる思いを体感しておりますが、幸い四名の新しい幹事の方々の参画を得て、更なる会の発展に幹事諸氏共々微力ながら全力投球してまいりたいと思っております。ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、石の上にも三年、当会も四年目に入ります。振り返りますと正に模索の三年であった様に思います。漸く活動路線も定着し、社会性のある行事も増えて、その存在感も日々大きくなりつつある事を実感しております。

定例会、東海自然歩道観察会に加え、国有林の再生整備作業、黒髪山自然教室、共働作業である棚田再生、営農援助、畑作、景観復元等体と心に汗をかきながら、ステージの広がりにより、それぞれの自然保護にたいする価値観を充たす場として、この自由空間を大いに活用し、参加意識の高揚に努めていただきたいものと願っております。

他方、行政との係わりにおいて、県民フォーラムへの参加、環境フェア、アースデイ等公共的な行事への参画も、より積極的に取り組んで行きたいと考えております。奈良には自然が多く、失礼ながら行政の自然観も希薄の様に思いますが、我々の小さなパワーが行政・教育・一般市民の意識の変化を誘導できれば、これに過ぐるものはなく、持続こそ力であると確信しております。

また、シニア自然大学の関連において、講師派遣の要請が増える事も予想されます。日頃培った個人それぞれの実力を発揮する機会でもあり、率直に対応していただく様お進めしたいと考えます。

ボランティアとは結果としてサービス、奉仕であっても、本来の意味は「進んでやる」と言う事です。私自身常々この崇高な活動の方々の直接費用を補償できない事を心苦しく思っておりますが、助成金、シニア本局からの資金援助等にも腐心してまいりたいと思っております。

我々も人生の余剰時間が少なくなりました。肩の力を抜いて、一步一步次代に繋がる基盤を皆さんと一緒に構築できればと考えます。

「模索から充実へ」を合言葉に、実りある前進を続けたいと念願しております。皆様のご健康を願い、新年度もよろしくお願い申し上げます。

五月例会「神野山」

「夏も近づく八十八夜 野にも山にも若葉が茂る あれに見えるは 茶摘じゃないか
茜だすきに 菅の傘 日和続きの今日この頃を 心長閑に摘み摘み歌う 摘めよ摘め摘め
摘まねばならぬ 摘まにゃ日本の茶にならぬ」。たたなづく青垣と茶畑の波の、山こもれる
うるわしき大和の神野山高原を、乙女兒の歓迎を受け散策しました。今年の八十八夜は五
月一日で九十八夜は五月十一日、この頃に神野山のツツジが満開になると村の古老の言い
伝えがある由。霧の中しつとりと咲き、点在する山田の早苗も元気良く翠の風に吹かれ、
光と霧と小雨、フィトンチドそして小鳥のさえずりのシャワーに溢れた例会でした。神野
山は標高こそ 619m とアップダウンの少ない、頂上には温暖なタブの木などもある比較的登
り易い山で、当日の山頂からは笠置、奈良、生駒、伊賀上野、鈴鹿や台高の山々は、恥ず
かしげに霧の中にくすんで、その姿をみせてくれませんでした。

近鉄奈良駅からおおよそ 1 時間、山間を縫う如くバスに揺られてのぼると、そこは神野
山登山口のバス停でした。どっしりとした民家や茶畑を過ぎると、やがて山道に入り、ヘ
ビイチゴの群落やホーノキの名残花をみつけ、ハーブティにも使われるクロモジの葉を五
感で確認し、杉や檜の植林地では、雪国にある雪起しが見られました。また、とある路か
ら外れた斜面では、山の果実の女王たるサルナシを見つけて感激し、山を愛する人のこだ
わりとして、場所はお教え致しかねますので悪しからず。また珍しい、春にくるくと葉
を巻くオトシブミという昆虫を見、山頂周辺では、ギフチョウの食草たるカンアオイの群
落に出会い、早春のその艶やかな舞う姿を想像しました。

山頂には一等三角点が立てられ、あちこちには巨石累々とした黒い岩が散在し、それは
やがて鍋倉溪へと続く。所で岩石はその出来かたから、地下のマグマが噴き出て固まって
出来る「火成岩」と、岩や石のかけらが水の底に積もって出来た「堆積岩」に大きく分類
されるが、何故かこの神野山の岩は、火成岩の中の角閃石斑れい岩という、割るときらき
ら光って見える珍しい岩石で、特に山の中腹の谷あいには、幅 20~40m、長さ 500~600
m にわたる転石の広がりや鍋倉溪とあって、奈良県の天然記念物に指定されている。火山
学的には、この岩は風化にもよく耐えて岩石として残り、当時の谷底に移動して集まった
とされているが、民俗学的には、神野山の天狗と伊賀の天狗が喧嘩をして投げ合った岩と
の古老の面白おかしき言い伝えがあるのです。また岩の表面は、魔か不可思議なる線刻の
ようなものが多数見られるが。それは滋賀県安曇川町の北出区に見られる、ホツマツタエ
に出てくる神代文字のようにも覚えるが、思い過ごしであろうか。

この神野山にはもうひとつ、不可思議なことがあるのです。それは神野山と太陽信仰、
そして巨石信仰、七夕信仰の超古代文明が栄えたと言う、研究が発表されています。時代
は、昔々のその昔、縄文時代にまで遡り、その頃の人達は円錐形の美しい山を神様と崇め
信仰していました。神野山はそれに当たり、また神様が降りてくる場所として「いわくら」
が設けられたのです。「いわくら」とは、巨大な磐を中心に、いくつかの石がそれを取り囲
むようにして作られた古代人の祈りの場だったそうです。神野山を中心として、山添村に

第8回 東海自然歩道（山の辺の道Ⅱ）自然観察会

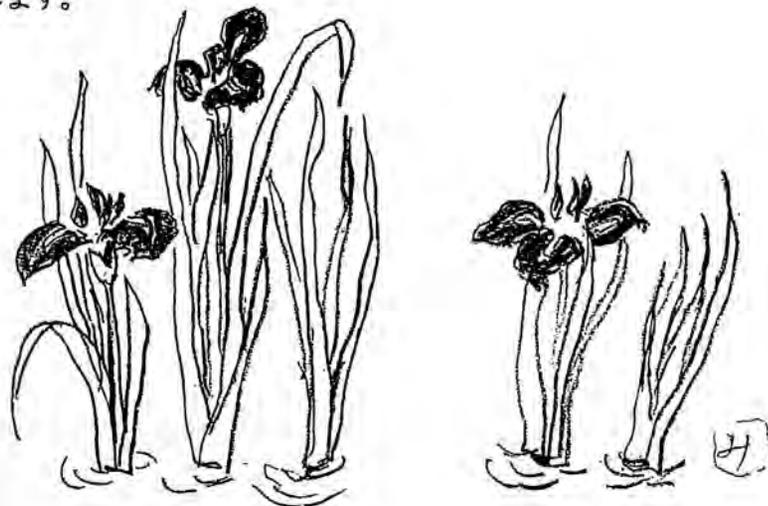
林 令子

5月16日（日）近鉄天理駅、9時30分集合、雨予報のためか 参加者は少なく8名、アーケード付の商店街（あとで思えば、このコースの唯一の楽園だった）を通り抜けるとやはり雨、途中、雌雄合体のラップイチョウ、クサノオ、粋な名前のユウゲショウ等を観察、石上神宮に着く。ここでひと休みし、万全の雨対策をとる。いざ出陣、ハナミョウガ、スイカズラ、テイカカズラ、ガマズミ、大木のセンダンの花々を楽しみ、増水してゴーゴーと音を立てる布留川を後にし、豊田神社を通り過ぎ、暫く歩いた所で、リーダーの大石さんから「続行か、退却か」の緊急動議が出される。

話し合いの結果は続行。ドシャブリの中、時には川になったかと思われる道を靴をぐじゅぐじゅにしながら歩く。途中、キショウブ、アヤメの群落が姿を見せ、我々の目を楽しませ、元気付けてくれる。余りの豪雨にブドウ畑のビニールハウスに無断侵入し一時避難、又歩き出しようやく白河溜池に到着、休憩所で待望の昼食を摂る。目を上げると雨に煙る大和高原の山並みが美しい姿を見せてくれている。「雨もいいな、晴れではこんなにしっとりとした光景は見られなかったよ。」と我が身を慰める。小康状態だった雨は歩き出すと又激しく降ってくる。意地悪な雨！滝の様に水が流れる山道を抜け、車道を少し歩き、弘仁寺に辿り着く。虚空蔵山をバックにどっしりと落ち着いた寺、何よりも雨が避けられるのが嬉しい。縁側に座りほっとする。メンバーのひとりが靴下を絞っている。相当量の水が絞り出され、雨の凄さが改めて思い知らされる。境内の片隅にひっそりと咲く和種のスズランの清楚な姿が心を和ませてくれた。

さあ、山村町バス停に向けてもうひとガンバリ！クサフジの群生やピンクの花のクロ、イチゴ、ヒレアザミ、等を観察し急ぎ足でバス停へ、バスの発車を少し待って貰って全員無事乗り込み、近鉄奈良駅で解散となる。8人のメンバーがしっぽり濡れた思い出深い楽しい1日だった.....で終わればよかったのに大石さんから「原稿を書いて」と言われ気分一転、ブルー、ナーバスの世界となる。フィナーレがよくなかったな。

終わりにリーダーを始め、色々と教えていただいた先輩の方々、ありがとうございました。これからも雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ、ガップリ喰いついていきますのでよろしく願いいたします。



甦った山桜

(生駒棚田活動 里山の手入れの中で)

阿部和生

「古木が芽を吹いたよ」いこま棚田クラブの活動日、参加できなかった日に連絡を頂いた。思わず「やったね」と声が弾む。

昨年の冬から少し手入れをしてきた山林は、竹林化していて樹木たちは生き絶え絶えの様子でした。その中でもひとときわ大きいその古木は、腕より太いフジつるに絡まれ 周囲をひしめき合った太い竹に取り囲まれ 枯死寸前のありさまでした。地主さんに尋ねると「そんな木 あったかな 永いこと山へはは入っとらんでな…枯れとるやろなあ」ということであった。

いこま棚田クラブの作業の一環として 竹林と化した棚田を 暴れている竹をこの冬季に手入れすることになり 伐り出していたときに見つけたのでした。古木の周りを明るくし、フジ蔓を切り整備したのです。竹を取り除くと 古木は、左右に大きく手を広げどっしりとした風格ある立ち木です。梢を少しだけだし木の葉一枚もつけず 足元は竹の根に蹂躪され寒々としていた様は 木を撫でてみても たたいていても 枯れる寸前 枯れているのでは？と思わせます。「伐ってしまおうか いや春まで様子を見よう まあ無駄だね でもひょっとしてということもあるかも 誰か樹医は居らんかな！」などなど 議論の後春まで様子を見ることになっていたのです。

次の活動日 真っ先に古木を見に行きました。梢だけでなく そちこちに新芽が吹きでています。遠慮がちに！でも全身に陽の光を受け止め「有難う 元気が出てきたよ」と叫んでいるように思えました。左右に伸びた太い枝からも芽吹きが見られます。「なにの樹だろう」ととてもとても手の届くような高さに葉はありません。葉を採取するのすら可哀相です。「このままにしよう 元気になるよ」と声をかけ離れたのでした。

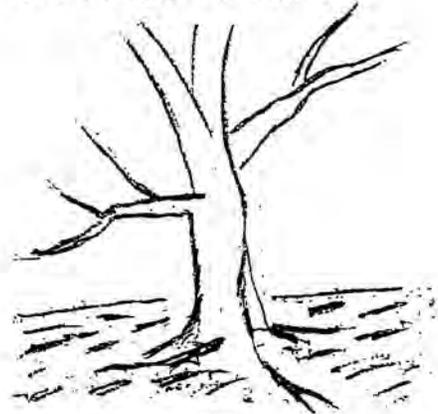
その後 芽吹きはたくましく育ち 太陽をいっぱい受け止め しっかりと葉を茂らせています。今では「どうだ 遅いだろう」とすっかり威張っています。

山桜が甦ったのです。木肌では判別がつかなかった古木が 山桜と同定されて眺めてみるとその特徴が見出せます。でもおおよそ桜らしくないのです。

しかし桜となるとまた来春が楽しみです。この古木ヤマサクラに満開の花が咲いてくれるのでしょうか いや少しだけでも咲いてくれるのではないかしら、花をつけてくれよ！

花の下で復活を みなで祝ってやるからな。

今は作業のたびに 復活を祝い 希望を託し
「花が咲いたらこの樹は 棚田のシンボルだ！」
と叫んでいるのです。後二本の別のサクラも
周囲を明るくして元気を取り戻させたい。
みな願いです。



ユリの神事



寺田正博

奈良市に、この季節の知られざる儀式植物にユリがある。

六月十七日、奈良市の率川神社（いさがわじんじゃ）で三枝祭（さいぐさまつり）が行なわれる。（近鉄奈良駅西、やすらぎ通りを南へ三条通りをこえた西側）

この三枝はササユリのこと。ササユリの花を樽（そん）と缶（はとび）の二種の酒樽を供えた神前で、ササユリの花を手にした四人の巫女が舞を奉納し、祭典が終わるとそのササユリが参拝者に授けられる。この花は疫病除けによいといわれ、参拝者も多い。この祭はユリ祭りともいわれている。大宝令（701）にはすでに三枝祭りに関する記載があり、わが国最古の祭りの一つであろう。その日、七媛女（ななおとめ）・ゆり姫・稚児が市内を巡行する。

現代のような形の祭は明治に復元されてからで、ササユリが神事に使われるのは、この神社の祭神とかかわりがある。率川神社の祭神は伊須気余理比売命（いすけよりひめのみこと）、別名を五十鈴姫命（いすずひめのみこと）という。神武天皇の妃である。姫は、三輪山の狭井河の上に住んでいた。ある日、七人の乙女の先頭に立って野を歩いていたら神武天皇と出会い、狭井河の姫の家で結ばれる。（古事記）「その河を佐草河と謂ふは、その河の辺に山ゆり草多にありき。かれ、その山ゆり草の名を取りて、佐草河と号（なづ）けき。山ゆり草の本の名は佐草と云ひき」（古事記）この山由理草は現在のヤマユリではなく、三輪山に今も生えるササユリとされている。佐草は三枝に通じる。

三輪山には大神神社があり、大物主を祭っている。大物主は伊須気余比売の父親であるこの大神神社境内の狭井神社で四月十八日、鎮花（はなしずめ）祭りが行なわれるが、その際、神前にはスイカズラとササユリの球根が供えられる。

姫にササユリの花を、その親に球根を供えるのは、何か関わりを感じるが理由は不明。

三輪山の鎮花祭り疫病神鎮圧の目的で行なわれる。それに供えられるユリの球根は血行を良くし、痰を取り、脚気に効き、産後に力をつけるなどの薬効があるという。ユリの球根は薬よりも食料の方に重きをおかれたようだ。ユリは北半球に広く分布するが、最もよく食べるのは日本人である。現在もオニユリやコオニユリが食料として栽培され、百合根は正月料理などに使われる。野生のヤマユリやヒメユリの根も食用にされる。

この伝統は花を鑑賞するよりも、はるかに古い。福井県三方町の鳥浜貝塚では縄文時代前期の炭化したユリ科の球根と、土器の内部に付着した小型の球根が発見されている。くわしい種類はまだ同定されていないようだが、ユリ科の球根の利用は五千年の歴史があるといわれている。ウバユリ、クロユリ、クルマユリなども食用になる。アイヌの人達もクロユリ、ウバユリ、クルマユリなどの球根を白でつき、乾燥させて固めて保存食にしたり水に晒して採った澱粉を団子にして食べた。

ユリという名について、牧野富太郎は「中国に百合という一種のユリがあって、白い花が咲く。これは中国の特産であって、日本には見ることがない。そして百合は、白花ユリ（*Lilium* sp）の専有する特名である。…日本ではなお百合をユリの総名のように思っており、ユリといえば百合と書いているが、それはまったく間違っている」と記している。

参考引用文献 『植物と行事』湯浅浩史 『奈良県の歴史散歩』奈良県歴史学会
『古代日本の四季ごよみ』藤井一二 『植物知識』牧野富太郎



地域情報



*1,2行でも結構です
身近な記事を送ってください。

春日山原生林：今年はフジがだめでしたが、ギンリョウソウはたくさん咲いていました。
クリンソウも3か所で群生しているのを見つけました。そのうちの1か所
は特に素晴らしく清流に沿って、実に配置よく、美しく咲いていました。
(5月1・2・6・8・11日に歩く) 来年希望される方がありましたらご案内します。
(林 令子)

葛城山：ツツドリ (鳴き声)、アオゲラがいました。イカリソウが咲いていました。(4/24)
(勝田)



6月例会

元山上 千光寺と湿地帯の植物観察

役行者が開いた千光寺。山門を入ると野鳥の声が聞こえる静かな境内、
途中湿地を観察し、生駒山口神社へ。あまり知られていない南生駒を歩きます。

〈日 時〉：6月5日(土) 9:30~16:00

〈集合場所〉：近鉄生駒線 元山上口駅改札前 9:30
(近鉄奈良線生駒駅乗り換え 王寺行き 15分位)

〈持ち物〉：弁当・お茶・観察用具

〈コース〉：元山上口駅(9:30)→湿地(10:30)→すかんぼ池(12:00) 昼食
→千光寺(14:00)→生駒山口神社(15:00)→元山上口駅(16:00)

〈担 当〉 川井 秀夫
大寺 道代

【奈良忍辱山森林整備作業】

- 〈場 所〉 奈良市忍辱山国有林（東海自然歩道沿い奈良方面へ徒歩約10分）
- 〈日 時〉 6月9日（水） 11時30分 第5回
6月19日（土） 10時30分 第6回
終了は3時頃の予定です
- 〈集合場所〉 円成寺駐車場（円成寺門の向かい側）
バス停「円成寺口」と「忍辱山円成寺」の中間位置
（9時30分にはスタッフは現地に居ります）
- 〈持ち物〉 ヘルメット（防災用）・鋸・手袋・スパッツ・弁当・飲み物他。
履物はハイキングシューズ・長靴など。
◎作業中は長袖シャツを着用してください。
道具は当会にて多少は用意しております。
- 〈交 通〉 奈良交通バス 【柳生行き】
JR奈良駅③番乗り場 近鉄奈良駅④番乗り場
6/9 10:40 10:43
6/19 9:40 9:43
- 〈連絡先〉 弓場厚次
阿部和生
寺田正博



ネイチャーなら

ネイチャーなら 奈良・人と自然の会

第9回 東海自然歩道…自然観察会

大和青垣山麓の山村御殿と呼ばれる円照寺から奈良公園までの、のどかな田園をつなぐ日本最古の官道を辿ります。 気楽にご参加ください。

- 〈コース名〉 ⑨ 山の辺の道 I [9 km]
- 〈日 時〉 6月16日（水） 9時20分 集合
- 〈集合場所〉 近鉄奈良駅 行基菩薩像前
* 近鉄ナンバ【奈良行快急】8:38…鶴橋8:44…奈良9:17着
- 〈行 程〉 近鉄奈良駅（バス）円照寺…白毫寺…新薬師寺…近鉄奈良駅
- 〈参加費〉 資料代等として4月から9月までの半期分：@200円を申し受けいたします。
- 〈担 当〉 小山直方 寺田正博（ 弓場厚次

7月例会 自然工作

今回は会員相互のフォローアップを目的とした研修です。一寸したアイディアで子供にうける作品（ノーハウ）をお持ちの方から、会員への伝授の場としました。

（尚、25日の出演内容の打ち合わせも簡単に行います）

《日 時》 7月17日（土）10:00集合 ~ 15:00解散 雨天決行

《場 所》 奈良市奈良阪町、黒髪山キャンプ・フィールド

《交 通》 近鉄奈良駅前13番バスのり場。高の原・加茂方面行乗車

「黒髪奈保町」下車、西の方角へ自転車道沿いに徒歩約15分。

☆ 持ち物 → 弁当・水筒・愛用の工作ナイフ ☆ 準備の都合が有りますので必ず連絡を

※ 連絡先→担当…樋口善雄



ネイチャーなら 奈良・人と自然の会

第1.0回 東海自然歩道・自然観察会

暑さ厳しい中、新薬師寺から能登川沿いに「緑のトンネル」柳生街道滝坂の道を辿り、「ネイチャーなら森林整備作業」の現場を眺めて、涼しい忍辱山円成寺に向います。

〈コース名〉 ⑩ 滝坂の道 [12km]

〈日 時〉 7月22日（木） 9時30分 集合

〈集合場所〉 近鉄奈良駅 行基菩薩像前

＊ 近鉄ナンバ〔奈良行快速〕8:51発…鶴橋 8:57…西大寺9:23…近鉄奈良9:28着

〈行 程〉 近鉄奈良駅…新薬師寺…滝坂の道…峠の茶屋…忍辱山円成寺～奈良駅

〈参加費〉 資料代等として4月から9月までの半期分：@200円を申し受けいたします。

〈担 当〉 勝田 均 寺田正博 弓場厚次



ネイチャーなら 奈良・人と自然の会

[8月度例会] 吉野・十津川村 自然観察会

十津川村の広さは奈良県の約五分の一を占め、日本一の大きな村で96%が山林です。今夏、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録される玉置神社の広い境内は全国に誇れる鎮守の森。樹齢3000年の神代杉や奈良県下でも最大の幹周10.3m・樹高45mの大杉等が群生する玉置山(1076m)の森や瀨峡の景観を観に行きませんか。

〈日 時〉 : 8月23日(月)～24日(火) [一泊2日]

〈集 合〉 : 近鉄大和八木駅 北出口広場 午前9時

〈宿 泊〉 : 十津川温泉 『昴の郷・ホテル昴』 Tel: 07466-4-1111

〈行 程〉 :

8月23日(月)

大和八木～谷瀬の吊り橋～笹の滝～21世紀の森～十津川温泉昴の郷

8月24日(火)

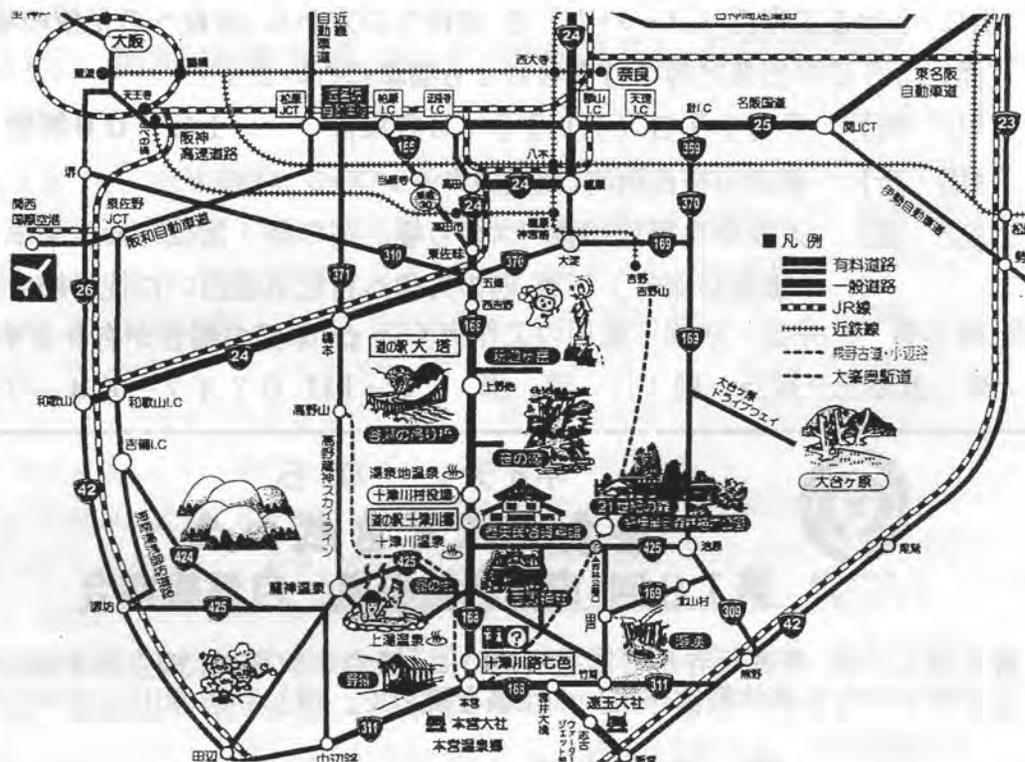
昴の郷～玉置神社……玉置山～本宮大社～瀨峡～北山村～八木

〈費 用〉 : 22,000円 (宿泊費、現地交通費等)

〈担 当〉 寺田正博 大石門三 弓場厚次

参加申込み〔先着25名〕弓場厚次まで

<吉野・十津川へのアクセス>



【いこま棚田クラブ】



棚田活動50回を記念して民家の母屋を借りて一泊行事をします。(6/19、20)



- ・会員制を取らないユニークなクラブです。誰でもいつでも参加をお待ちしています。アツサイヒカタツムリ棚田作業に一度でも来られた参加者は70名を越えています。
- ・休耕田になっている棚田の復活に挑戦(いこま棚田クラブと近畿大学農学部研究室が田植えをしました。)
- ・6/19(土)、6/20(日)民家に宿泊しての棚田活動を計画しました。(土曜日だけの参加も歓迎)
- ・地元の方から耕運機を借りました。畑(休耕田)も借りました。愈々本格的農作業の体制が整いつつあります。
- ・シニア自然大学の総合科(そら組)、環境科、高等科と続々棚田を訪れています。
- ・いこま棚田クラブのシンボル手ぬぐいが出来ました。(カンパのつもりで買ってください。1本 500円)

◆6月活動日 第50回 6/6(日)、第51回 6/14(月)、第52回 6/19(土)～6/20(日)、第53回 6/28(月)

◆7月活動日 第54回 7/4(日)、第55回 7/12(月)、第56回 7/18(日)、第57回 7/26(月)
(集合時間をセブイレブ前 9:00としています。9:30発もありますので無理な方は申し出て下さい)

◆集合場所 近鉄生駒駅下車(鶴橋駅より快速15分)南口側ケーブル駅西隣りセブイレブ前

集合時間 9時00分 現地まで車で移動(15分)

◆持ち物 弁当、飲み物、観察用品、軍手、長靴、草刈り鎌(有る人)

お願い:生駒駅からは車で移動します。参加者は事前にtelまたはfaxで下記までご連絡願います。

事務局 大寺道代

【黒髪山 C/F】【県民フォーラム】

自然工作の出番です

今年は、奈良市黒髪山のキャンプ・フィールドへ、工作指導の参加を致しますので、七月後半にイベントが集中しました。会員諸氏の協力を得て、下記の日程を消化して行きたいと思っております。御協力の程よろしく申し上げます。
☆準備の都合がありますので必ずご連絡下さい。

日 時	主 催	場 所	内 容	対 象
7月25日(日) AM 9:30) PM 3:00	黒髪山 C/F 運営協議会	黒髪山 C/F 奈良市奈良阪町	C/F内の自然観察 とナイフを使用 した工作。 ・エンピツ君 ・モク君 ・バードコール、等	小・中学 生が中心
7月31日(土) AM 9:30) PM 3:00	奈良県環境課 県民フォーラム	奈良県広域地場産業 推進センター ・JR和歌山線高田 駅前 ・近鉄大阪線大和 高田駅前	・竹の鳩笛 ・セミ丸君	一 般

*連絡先・担当:樋口善雄

2004年5月度定例幹事会報告

- 1 日 時 平成16年5月7日(金) PM6/00~9/00
- 2 場 所 奈良県文化会館
- 3 司会、書記 小山、阿部
- 4 出席者 川井 豊島 寺田 弓場 小山 樋口 勝田 大寺 大石 阿部
- 5 議 事 「報告事項」
 - ①会員動向 101名、3月末会員93名。 会計報告 4月末残高 ¥234,877円
 - ②4月度例会「宮滝から吉野山」参加18名 満開のサクラ 大勢の人出であった
 - ③東海自然歩道・自然観察会 第7回「山の辺の道Ⅲ」 参加20名
 - ④なら森林整備作業 忍辱山国有林 4/14,4/29 実施 1.5km²の区域
 - ⑤アースデーINなら 県立ファミリー公園にて 大盛況であった。
 - ⑥いこま棚田クラブ 4回の活動日と周辺の観察会を実施 生駒市役所訪問 4月より
講座終了の方たちの参加もあり

「承認事項」

- ①新年度の幹事 野田幹事の退任要請あり会員の増加もあり 新年度14名に
- ②役員分担 次年度 副会長職と会計職の分離を行う
- ③第3回通常総会の実施 奈良県立文化会館にて5月23日午後。

「討議事項」

①総会資料の確認 会則変更案の策定

②行事日程

月例会 6月5日 生駒山麓 PartII 自然観察会 川井 大寺

7月17日 黒髪山キャンプフィールド クラフト講座 樋口

8月23～24 十津川村一泊研修 玉置山を訪ね「昴」の里泊 弓場

東海自然歩道自然観察会……寺田・弓場

6月16日 山の辺の道 I(円照寺～新薬師寺) 小山

7月22日 滝坂の道 (新薬師寺～円成寺) 勝田

なら森林整備作業 忍辱山国有林にて 6月9日、6月19日

受託 出展など

7月25日 黒髪山キャンプフィールド ボーイスカウトへの研修

7月31日 平成16年度 環境フェア出展(大和高田市・産業振興センター)

第三回通常総会報告

日時：平成16年5月23日(日) 午後1時より

場所：奈良県文化会館 第二会議室

成立

会員総数93名(平成16年3月31日現在)、総出席者数19名、委任状提出者数50名、
よって過半数に達し会は成立した。

議長：出口育宏

書記：大石門三、豊島すみ子

- 議事(1) 3期事業報告、会計収支報告(第1号議案)および第4期事業予定、収支予算案(第2号議案)および会則一部改定(第3号議案)について、満場一致承認された。
- (2) 第4号議案の役員任期満了に伴う選任について、別紙のとおり14名が承認された。なお平成16年度の役員は、会長 川井秀夫 副会長 豊島すみ子 事務局 弓場厚次、大寺道代 会計 大石門三が決定した。
- (3) その他として、会の活性化の為にも、幹事役員の定年制を設けて新陳代謝を計ってはその意見が、また総会を活発化するためにも、懇談会(食事会)を総会の後に催しては等の意見が提議された。

* 総会に欠席された方には議案書をお送りいたします。<事務局>

編集後記：巨石文化を研究する「いわくら(磐座)学会」が15日奈良市で発足。当会5月例会の「神野山」など今後国内の巨石文化を各分野から解明することのこと。ロマンを抱かしてくれるものがまだ残っていることにホッとしました。

編集担当：勝田 均

Tel&Fax

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 川井 秀夫